

令和7年度 東陽中学校中学校のあゆみ  
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

【成果と課題】

○全国学力・学習状況調査

〈国語〉

平均正答率は大阪市全体に比して-1ポイントである。要因として、書記日本語の領域における文章表現力の弱さが垣間見られる。また、読解に関しては少しづつではあるが改善の兆しがみられる。

〈数学〉

平均正答率(45%)は全国と比較して-3.3ポイント、大阪府と比較して-1.0ポイントとなった。学習指導要領の領域の中では、全国と比較して「A数と式」は-7.0ポイント、「B図形」は+4.2ポイント、「C関数」は-3.1ポイント、「Dデータの活用」は-6.0ポイントとなった。大阪府と比較すると「A数と式」「C関数」「Dデータの活用」の3つの領域で下回っている。平均無回答率は大阪府-3.3ポイント、全国-2.7ポイントであった。

〈理科〉

全国のIRTスコアは503、大阪市のIRTスコアは489、東陽中学校のIRTスコアは471であった。

全体のスコアでは全国や大阪市の平均を下回っているが、IRTバンド3のスコアは大阪市の40.4%と比較して、+0.8%上回っていた。

また、2のスコアは全国の27.3%、大阪市の30.9%と比較して、39.2%と+10%程度上回っていた。

【今後に向けて】

○全国学力・学習状況調査

〈国語〉

現在、取り組むところの「総合的読解力」育成や教科・領域横断的な読解を通じ、読解力の向上と、文章表現や要約力の育成に継続して取り組んでいくこととする。また、学校図書館での読書促進や市立図書館と連携した読書活動に力を入れていく。

〈数学〉

「A数と式」「Dデータの活用」を苦手とする生徒が多い。「A数と式」については、計算や方程式の練習問題に多く取り組ませ、添削することで、計算や式変形の力を身につけさせる。「Dデータの活用」についてはデータを表に整理する力や、箱ひげ図、ヒストグラムなどから正確に情報を読み取り、思考する力を身につけさせる。

〈理科〉

授業の規律を確保しつつ、生徒の学力向上に向けた授業改善に向けた取り組みとして、実験を行ったり、グループワークを行うことによりクラスでの対話を増やし、主体的に対話的で深い学びを実践していく。

身近な題材を取り上げ、理科が日常生活から切り離されたものではなく、身の回りの物事と深く結びついていることに気付ける探究的な学びを実践していく。